

(議事概要)

第3回「飼い主のためのペットフード・ガイドライン」改訂に係る有識者ヒアリング

開催日時：平成30年6月11日(火) 10:00～12:30

開催場所：馬事畜産会館2階第1会議室

議事概要：

委員からの修正稿等をもとに改訂内容を検討。主な修正点は以下のとおり。なお、全体のデザインについては事務局に一任ということで各委員の了解を得た。

● 必要な栄養素の違い

犬、猫が必要とするたん白質の量を人を100として比較した場合、犬で199%、猫で288%となる。犬は人の2倍のたん白質が必要なので、犬にも肉を与えなければいけないというイメージに繋がってしまう懸念がある。これは構成比の問題と思われるので、一定カロリーに含まれるたん白質の量で比較することで対応可能と考えられる。

乳の成分の「乳糖」は「糖質(乳糖など)」に修正。

参考としてドッグフード、キャットフードのドライタイプの10gあたりの食塩量を追加。

● フードの与え方

飲み水のコラムについて猫にドライフードを与える際に飲み水を複数箇所においておくことを推奨する旨追記。

● 与えてはいけないもの、注意が必要なもの

ブドウ・干しブドウは腎不全を起こす原因が明確になっていないので削除した方が良いとの意見も上げられたが、PubMed等で論文を検索すると多数の報告が上げられている。注意喚起の意味からも削除しないほうが良い。

● 市販のペットフードの種類と選び方

ペットフードの水分含量による分類は使用目的による分類の後に移動。

水分含量による分類の解説は保存に関する事項を除き、製品特徴の解説に絞る。

ライフステージによる分類について、実際に8歳程度から犬猫の身体検査結果の異常値の比率も増加してくるので、高齢期に区分しても問題は無いと思われる。

ライフステージによる分類の「高齢犬、高齢猫期」は「中高齢期」とし、大型犬と小

～中型犬・猫に書き分ける（大型犬 6～7 歳、小～中型犬・猫 8～10 歳）。

● 表示の見方

表示例の製造者の電話番号は、現存あるいは今後新たに出てくる番号との、万が一の重複を避けるため、○×表記とする。

● ペットフードの保存方法

記載順を水分含量による分類にあわせる。

● 痩せすぎ、太りすぎにしないために

コラムで「食事量を計算してみよう」となっているが、示されているのは食事量ではなくエネルギー量。食事量が計算できるように計算式を追加。また、計算に用いる係数は分かりやすさの観点から代表例のみとする。

● Q&A

ペットフードを食べた後の体調不良に関する質問（Q3）について、獣医師の診察を受ける場合、可能であれば製品を持参し、与えたペットフードの種類や与えた時の様子を説明することが重要なので追記する。

高齢犬の食事に関する質問（Q5）について、体重に変化が無い場合でも筋肉量が落ちている例が多いので追記する。

● 参考資料

掲載内容をアップデートする。各委員が改訂を担当した部分に引用した資料について整理し、改訂版の作成に当たって使用していない資料は削除。